

大阪

堺 泉州

大阪本社社会グループ
06(6231)0131(代)
大阪版FAX
06(6201)3143
購読のお申し込みは
0120-33-0843
(7:00~21:00)
購読・配達のご用は
06(6227)0413
(平日10:00~18:00)
広告のご用は
朝日広告社
06(6205)6961
朝日エリア・アド
06(6221)2923
折り込みは
朝日オリコミ大阪
06(6226)1290

大阪力 Part4

林梓生

都市研究

「21世紀都市の再創造を」。大阪市立大学に06年春設立された研究施設「都市研究プラザ」(アーバン・リサーチ・プラザURP)が掲げる理念だ。文化創造と社会的弱者が研究対象の2本柱。大阪市内に「現場プラザ」を設ける一方、海外には「サブセンター」を開設。海外からの研究スタッフが滞在するなど国際交流の拠点ともなっており、都市研究の「広場(プラザ)」をめざす。

大阪市立大学の中央、時計台の長の高原慶一朗(77)が「母校に恩近くにガラス張りの斬新な建物が返したい」と06年に寄贈したある。卒業生でユニ・チャーム会「高原記念館」。建設費は約6億

学外拠点街に融合



上 緑濃い都市研究プラザ。大阪市住吉区杉本3丁目、大阪市立大学
下 新しい形の研究施設を引っ張る佐々木雅幸・所長(右)と水内俊雄・副所長。大阪市立大学都市研究プラザ

3千万円。URPは、OB、学生、教職員らで組織する学友会とともに、ここに入居する。

大阪市立大学は、日本最大の公立大学。1928年に市立大阪商科大学が創設された当時の市長は関一だった。都市政策学者だった関の、「都市は大学と共に、大学は都市と共に」という言葉をバックボーンに都市研究の実績を積み上げてきた。源流の大阪商業講習所(1880年開設)から数えて05年に創立125周年を迎えたのを機に、都市再生をめざす新タイプの研究施設としてURPを企画・設立。まもなく文部科学省の事業「グローバルCOE」(07~11年度)に採択され、はじまりをついた。

COEは「センター・オブ・エクスセンス」の略で、「卓越した研究拠点」を意味する。「グロー

スタッフと住民が協力

「世界をリードする創造的な人材育成を図る研究拠点」という位置づけ。URP副所長の水内俊雄(51)は「105件の応募があり、約9倍の競争率で採択された。これまでの本学の実績と新しいスタイルが評価されたのだと思う」と話す。

グローバルCOEの補助金は07年度が約4千万円、08年度が約7千万円。他に学内資金や外部資金も投下されている。これを受け、設立時に34人だった人員は現在は約100人に増加。当初は17人だった特別研究員が若手を中心に増え68人に。うち、中国、韓国、インドネシア、デンマーク、米国など海外組が18人を数える。

URPは「街に溶け込む」ユニークな手法を展開する。「現場プラザ」と呼ぶサテライト施設を大阪市内など6カ所に開設。固定施設とスタッフという従来のやり方ではなく、教員や大学院生などのスタッフが、地域の中で、地域の人々と協力して研究に当たる。例えば、船場アートカフェはビル地下で都心部のアートを研究。西成プラザは簡易宿泊街の空き店舗に、長柄プラザは下町の木造アパートに、それぞれ設けられている。

研究現場は海外にも伸びる。これまでの蓄積や人脈を生かして、上海、バンコク、シヨクジャカルタ、ロサンゼルス、香港の5カ所に「サブセンター」を開設。相互往来しての研究やシンポジウム、ワークショップなどで国際交流を深める。2年以内にメルボルン、ソウル、台北にも開設する計画という。

URP所長の佐々木雅幸(58)は「現場プラザでは、NPOの人々や市民と一緒にワイワイと集まって研究が進行している。海外のサブセンターは世界レベルの都市研究のネットワーク拠点として機能。いずれも前例がない形です」と解説する。(文中敬称略)

asahi.com

MY TOWN
地域情報

http://mytown.asahi.com/osaka/

地域のニュース
こちらどうぞ

